

# 建築 専攻

設置クラス	芸大系日曜専科 高3生・高卒生	日曜 9:30~18:00
	芸大系高2日曜専科 高2生	日曜 9:30~18:00
	工学部系日曜専科 高3生・高卒生	日曜 9:30~18:00
	工学部系高2日曜専科 高2生	日曜 9:30~18:00



## 便利な建築から、感じる建築へ

あなたが最近、不便で困ったのは？多分、思い出そうと努力しないと見つからないのではないのでしょうか。今日、不便さのほとんどは解消され、効率やコストもこれ以上ないほどに達成されています。では、豊かさはあるか、思いがけない出会いや思わず微笑んでしまうような安らぎはどうでしょう？美術大学の建築とは、そのような価値観に立って、建築を考える場です。まずは感動を胸に、始めてみませんか。

## 指導スタッフ

東京藝大の卒業生と現役学生によって構成されたスタッフが、初心からの実技指導にあたります。実績として、東京藝大や京都工芸繊維大など例年多数の現役合格生を輩出しています。

- 講師
  - 井村 正和 東京藝大建築卒
  - 岡崎 万実子 東京藝大建築在籍
  - 奥川 司 多摩美大建築・環境デザイン在籍
  - 竹内 佑有 東京藝大建築在籍
  - 南中道 優地 東京藝大建築在籍
  - 原 峻大 東京藝大建築在籍
  - 渡辺 一生 東大大学院修
- チューター
  - 阿部 竜也 愛知芸大彫刻在籍



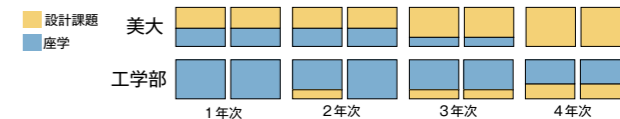
(2025年12月現在・50音順)

年間カリキュラム	芸大系・工学部系 日曜専科/高2日曜専科 春期講習
<b>1 学期</b> ● 入塾ガイダンス ● 第1回全統共通テスト模試	<b>[実技基礎]</b> ~初心からのスタート~ ● デッサン基礎課題 ● 静物デッサン導入 ● 想定デッサン導入 ● 各種レクチャー ● 建築写生
<b>2 学期</b> ● 保護者会(三者面談) ● 大学入学共通テスト出願 ● 第3回全統共通テスト模試 ● 全統プレ共通テスト	<b>夏期講習</b> <b>[専門対策開始]</b> ~大学別実技対策~ ● 建築事例見学 ● 三者面談 ● 総合型選抜・学校推薦型選抜対策 ● 過去問対策
<b>3 学期</b> ● 大学入学共通テスト ● 修了会	<b>冬期講習</b> <b>[演習型対策]</b> ● 個人面談 ● 大学別専用課題
	<b>直前講習</b>

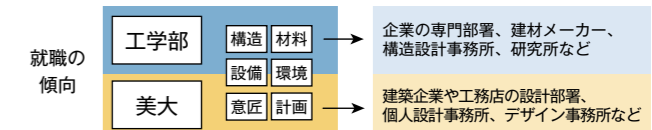
## 美大の建築への進学について

### Q1: 美大の建築は工学部とどう違う?

最大の違いは、4年間の授業編成にあります。美大では設計課題が中心、工学部では座学が中心です。美大では座学と並行して常に設計課題が出題されますが、工学部では設計課題は限定的に出題されることになります。



上の図では、美大と工学部それぞれでの、設計課題と座学の時間配分の一例が示されています。なお、工学部で計画(設計)系の研究室でない場合には、3~4年次での設計課題はありません。つまり、工学部の学生の大半は、卒業後には設計以外で建築に携わることになります。これに対して美大の学生のほとんどは設計、デザインの領域を通じて建築にかかわっていきます。



※上記の専門分野は工学部、美大どちらにおいても修めます。ただし、工学部では設計系の研究室以外の学生の方が多く、こうした傾向となります。

端的に言えば、「建築」という分野を専門分野に細分化して取り扱うのが工学部なのに対して、総体として統合的に考えていこうとするのが美大の建築です。

### Q2: 美大の建築ならではの特徴とは?

まず何よりも、自分の手を通じてものをつくりながら考えていく量の多さが特徴と言えます。座学を通じた知識だけでなく、課題を通じて教授と対話しつつ、自分の考えを形にして他者に伝えることを通じて培われる思考力は、建築デザイン分野のみならず多彩な領域でも評価されています。さらに多彩な形での表現活動が同時多発的に進行する環境は、他の大学にはない視野の広さをもたらしてくれます。



### 知識の習得

立方体などの幾何形体をモチーフとして、遠近法のレクチャーなどを行います。



### デッサン基礎

単純な形態の組み合わせを通じて、デッサンの基本を身につけます。



### 建築写生

市内の有名建築の写生を通じて、大スケールの描写も行います。



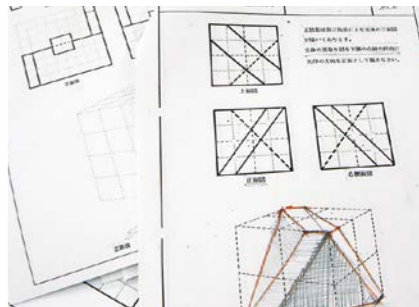
### 建築見学

近隣の世界的建築家の作品を訪れ、実際に空間を体感します。



### 大型モチーフ課題

静物モチーフよりも大型のモチーフ描写を通じて、空間表現を追求します。



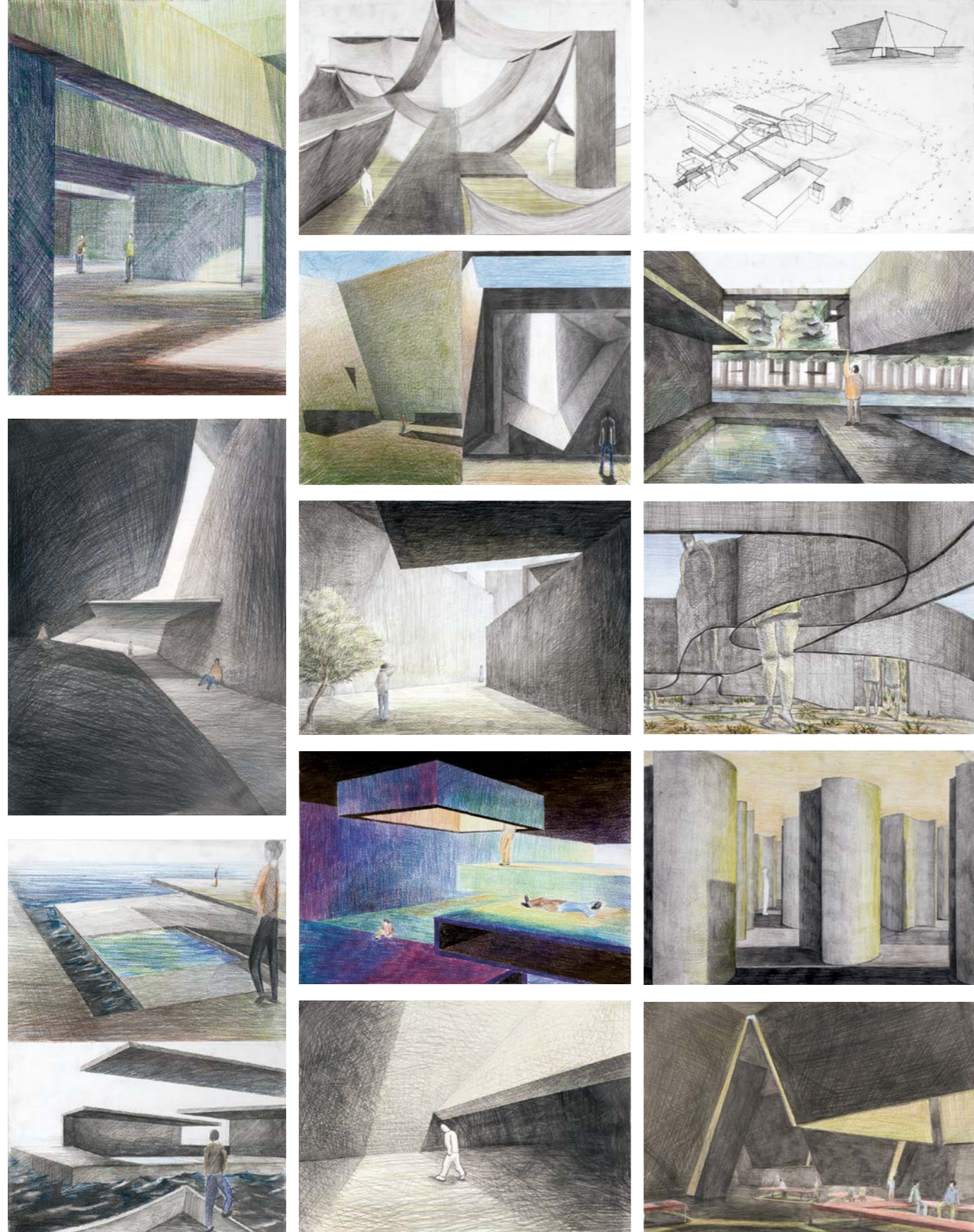
### 空間理解演習

三面図課題などを通じて、異なる形式の空間表現を習得します。

CAD全盛のこの時代において、絵を描くというやり方は、一見時代遅れのようにもありません。しかし、絵を描くということは、実際には立体的、空間的な把握力を育て、さらに部分と全体を統合できる力を養うことに他なりません。そうした力は、やがては自在に空間を構想するうえでの不可欠な道具となるのです。

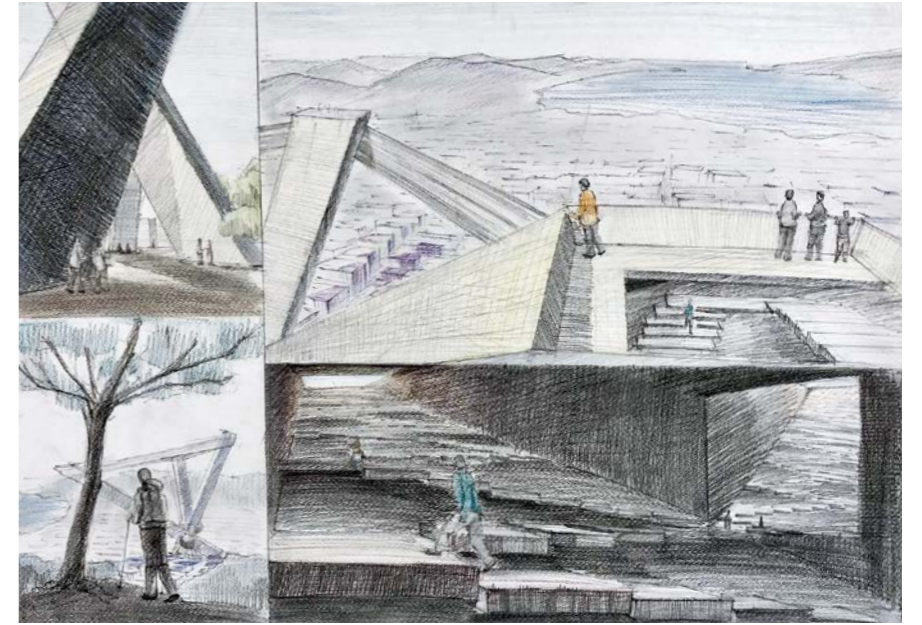
建築専攻では、そのような『思考のための道具』を手に入れる初歩から指導を始めます。さらに、実技指導を通じて、設計に不可欠な思考力、構築力、文章力まで含めて、総合的な表現力を培います。

高校にも、また多くの工学部の建築学科にもない、このような訓練を経た生徒は、大学入学の時点で他の建築学生と大きな差をつけてスタートを切ることになります。



東京藝術大学の合格作品

東京藝術大学では、空間構成（3h）と総合表現（7h）という、2つの実技試験が課されます。空間構成では、条件づけられた形状を正確に描写する技能が問われ、総合表現では課題に対してこうした課題に応えるために必要な技能と構想力が、入試のみならず大学入学後、さらには社会に出た後にも、豊かな建築を生み出す設計者としての力につながっていきます。



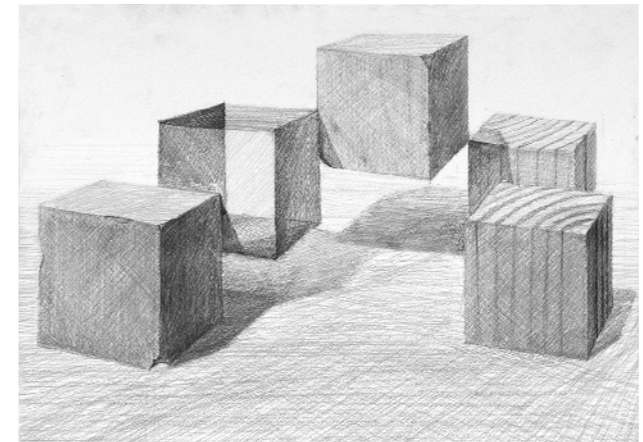
1 2024年度入試の空間構成課題は、立方体を切断してできる形状の構成でした。この作品では立体のみならず、それらのすき間に生まれる空間のおもしろさが描き出されています。

2 この年度の総合表現の出題では、架空の町における架空の体験記を通じて、その町の特徴である塔からなる空間を自由に構想することが求められました。条件づけられた4つの視点それぞれに対して、塔のみならずその周囲の空間の印象を生き生きと伝える作品となっています。発想と具体的な構想、さらに表現までもが含まれる、それがまさに「総合」表現なのです。

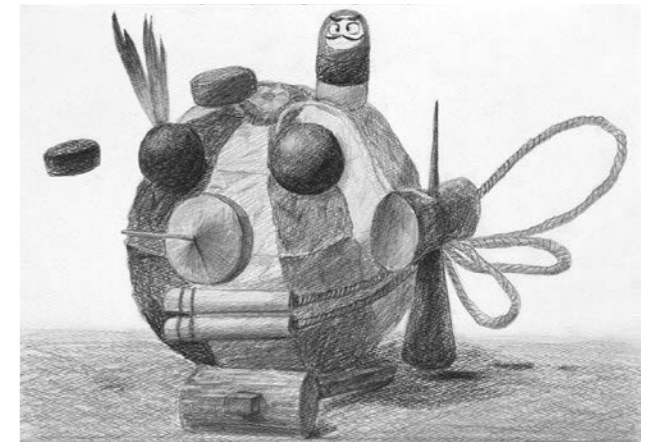
建築専攻入試の実技試験

東京藝術大学のほかにも、実技試験を課している大学があります。代表的なものでは、国公立大学では京都工芸繊維大学、私立大学では武蔵野美術大学などが挙げられます。

大学によって傾向に差はありますが、空間に対する理解力と伝達力という点では、基本的な技能習得をふまえた出題であることに変わりはありません。

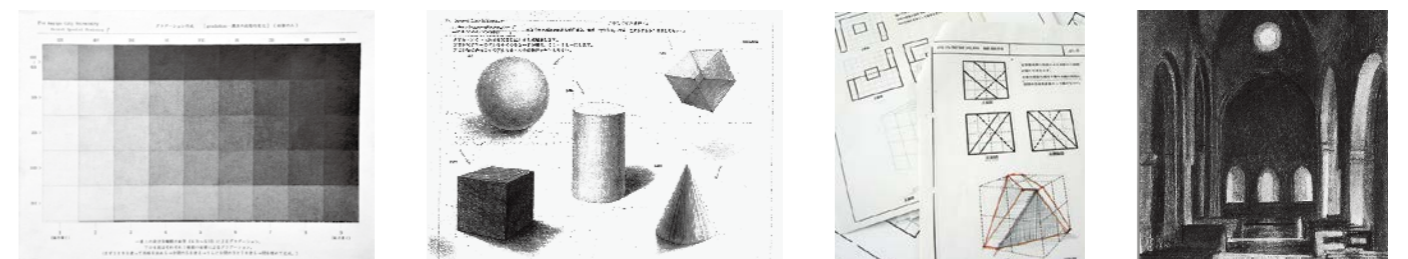


1 武蔵野美術大学対策の基礎課題です。立方体は、最も単純ながら正しく形態を描写することが難しい立体ですが、この作品ではそれぞれの立方体は正しい反面、同一のサイズに見えるかどうかという点が課題とされました。



2 京都工芸繊維大学で過去に出題された、「身の回りのものを用いて人の顔をつくり、描く」という課題の作品です。それぞれのモチーフが何であるのが明解であり、ユーモラスな構成を着実な描写が支えている作品です。

立体表現演習課題:基本から立体表現を身につける



1 画材に慣れる。異なる筆の硬さの鉛筆で、どこまで階調をつくれるかというトレーニングです。画材については、すべて基本から習得します。

2 さまざまな形態や素材における陰影表現の追求。実際の風景を写すだけでなく、光の方向などから論理的に理解したうえで描写するためのトレーニングです。

3 三面図を用いて、図面から立体物を想像する力を養います。

4 一方で写真の模写などを通じて、自然な光の印象を表現するための対策も行います。